



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN  
**佐土原ロータリークラブ週報**



**意識を喚起し  
 進んで行動を**

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

会員増強拡大月間

第654回 平成12年 8月 16日(水)

〔本日のプログラム〕

1. 点	鐘
2. ローターソング	
	「手に手つないで」
3. 食	事
4. 会長の時間	
5. 幹事報告	
6. 委員会報告	
7. 会員卓話	
	江崎富治君
8. 点	鐘

次回予告	
★	8月23日(水)
	会員卓話
	岩下廣美君
	家庭集会
★	8月30日(水)
	クラブフォーラム
	理事・役員会

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	梶田與之助
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	吉田康一郎
事務局	宮崎津佐土原町大字下郷町3887-17	幹事	宮原 建樹
	☎880-0212	会計	後藤 明夫
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

## 第 6 5 3 回例会記録

(2000. 8. 9)

### ☆会長の時間

会長 梶田 與之助 君

皆様 今日は

本日は第653回の例会で、ガバナー公式訪問の日です。

始めに、ガバナーの安満良明君をご紹介します。

所属クラブは加治木ロータリークラブです。

安満ガバナーには暑い中、遠路はるばる当クラブの公式訪問にお越し頂き、ありがとうございます。

連日の公式訪問で、さぞお疲れのことと思いますが、ご指導の程、よろしくお願い致します。

後程、ガバナーアドレスの時間を取っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、尾崎ガバナー補佐のご紹介を致します。

所属クラブは、西都ロータリークラブです。

暑い中、連日の公式訪問、ご苦労さまでございます。後のクラブ協議会で色々ご指導賜りたいと思います。宜しく願いいたします。

8月は会員増強拡大月間になっておりまして、ガバナーの同席のもと、加藤会員推薦の、有村一夫新会員の入会式を行う予定でしたが、本人の所用欠席の為、入会式は、次回に行いたいと思います。

### ☆幹事報告

幹事 宮原 建樹 君

1. 例会変更、休会通知はありません。
2. 新たに、西都・高鍋両クラブが加わり、宮崎県中部分区会長・幹事会が、来たる8月25日(金)18:30~より宮崎市の花月亭にて開催され、会長と幹事の私が出席いたします。会議の伝達事項はまた、後日、皆様にご報告致します。

### ☆出席報告

委員長 郡 司 武 俊 君

会 員 数	28名
例 会 出 席 者	26名
出 席 率	93%
メークアップ者数	2名
修 正 出 席 率	100%
欠 席 者 名	なし

ガバナー公式訪問日に出席率100%を達成でき、とても嬉しく思います。何とか、つないで行きたいものです。

### ☆親睦委員会

委員長 徳 丸 彰 一 君

1. 9月第2例会は観月会になります。例年の様に、ご家族同伴にて沢山の出席をお待ち申し上げます。
2. 歯車会が9月に開催の予定です。次は当クラブが担当クラブになります。こちらはまだ、場所、時間等確定しておりません。決まりましたら、ご協力をお願い致します。

## 安満良明ガバナー アドレス

貴クラブの梶田会長が、本年度の重点目標に①会員増強と親睦、②新世代の育成、③ロータリー財団・米山記念奨学会への協力推進を挙げておられます。

誠に時宜を得た重点目標でありますので、それぞれの委員会におかれては積極的にこの目標達成にご尽力されますよう期待しています。

今年度のR Iテーマは、『意識を喚起し、進んで行動を』という、非常に分かり易い、逆に言えば大変幅の広いテーマでもあります。

本日はこのテーマを基にして、ロータリーの綱領の4項目を反映した「ロータリー四大奉仕部門」について若干話してみたいと思います。

ご承知の通り四大奉仕は、**クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕**です。

ロータリーの歴史の流れと共に、この順番で奉仕の理念が生まれて来ています。

1905年、当時アメリカは不況に喘いでいました。そのうえ、白人を中心とした多民族国家であるため、だまし合いが横行し信用を失い、人心は荒廃・孤立して行きました。そのような孤立した青年の一人であったポール・ハリスは、現状を憂慮し、シカゴ市内で3人の友人と語り、2月23日第1回の会合を開きました。これがロータリークラブの誕生です。会員の事務所で輪番に集会を開いたことからロータリーと名付けられました。

友達をつくること、相互扶助の仲良しクラブがロータリークラブの起点でありましたので、クラブ奉仕の理念が基本になっていました。

今、私たちが考え直さなければならぬことは、例会出席の意味です。ともすれば、出席率競争のための出席になっているのではないのでしょうか。

例えば、ある会員が2回～3回と続けて例会を欠席した場合など、病気になっているのではないか、あるいは仕事がうまくいっていないのではないか、と気配りをして電話をし、次の例会には出席できるよう励ますこともロータリアンの友情として大切だと思います。

メイクアップについても、単にホームクラブ例会欠席補填のためだけでなく、他クラブのメンバーと友情を深める、他クラブの例会の長所を学び自クラブ例会の在り方の向上に資する、という意義があることを考えていただきたい。

皆さんも機会があれば、一度、日本で最も伝統のある東京・大阪クラブにメイクアップされると良いと思います。

仲良しクラブ、会員の相互扶助的なロータリークラブで推移しているうちに会員も徐々に増え、やがて、会員だけに特別なサービスをすることに対して疑問の声が出始めました。

そして、**職業奉仕**についての新しい発想による「四つのテスト」・「職業宣言」が生まれたのです。**職業奉仕**こそが、どこにもある仲良しクラブから世界的ロータリークラブへと拡大・成長して行くことのできた要素になっています。

現在の我が国は不景気で倒産も多く、クラブ会員数も伸び悩んでおります。

このような時にこそ「四つのテスト」と「職業宣言」をもう一度見直し、不況を克服していただきたいと思えます。

1907年にシカゴロータリークラブが、会員の奉仕作業でシカゴ市内に公衆便所を設置したのが第1回目の**社会奉仕活動**でした。

ロータリーは団体奉仕ではないとよく言われますが、私は、個人奉仕と団体奉仕の線引きはするべきでないと思えます。

例えば例会時に、ある会員から自分はこのような社会奉仕を行っているとの発言があった時に、それは良いことだから私も一緒にやらせてくれと2名～3名の賛同者があり、共に奉仕活動をする場合は団体奉仕に該当するからです。

ロータリーの社会奉仕が世界各地に広がって行くと、当然に**国際奉仕**が生まれて来ます。この国際奉仕を支えるのが、国際ロータリー財団になります。

1920年、米山梅吉氏が初めて東京にロータリークラブを創立しました。

当初の東京クラブは、日本のトップレベルの財界人の社交の場でした。

1923年の関東大震災に対して国際ロータリーから2万5千ドルの見舞金、世界中のロータリアンから8万4千ドルの義援金が送られて来ました。東京ロータリークラブは、この世界中のロータリアンの友情に感動し、それからロータリークラブへの意識を一変しました。友情と奉仕をするクラブであると目覚めたのです。

今や日本は会員数122,000人を超え、世界で2番目のロータリー大国です。

しかも全世界の会員総数の1割強の会員数でありながら、ロータリー財団への寄付金額は25%から28%を占める最も頼りにされている国であります。

2005年には、ロータリー創立100周年を記念してシカゴで国際大会が開かれます。その席上で国際ロータリーは、世界中からポリオを撲滅した旨の宣言をする予定になっています。

新会員の方などから「ロータリーとは何ですか？」と問われた時、私は即座に『**友情と奉仕**です。』と答えています。

「入りて学び、出て奉仕せよ」という標語があります。鹿児島市内の例会場にも何箇所か掲示してあります。

例会で友情を培い、奉仕をお互いに話し合って学び、そして例会場を出たら奉仕を実践する、まさにロータリーそのものであります。

実践する奉仕は友情を伴う奉仕でなければなりません。友情のない奉仕はエゴの奉仕で、ロータリーの奉仕とは言えません。

そのいい例がロータリーの交換留学生制度です。留学生には必ず受け入れ地区のホスト・クラブ、ホスト・ファミリーおよびカウンセラーが付いて、友情をもって接し、いろいろと指導・助言・世話をしてくれます。

皆さんも一人一人が、ロータリーはこういうものであると答えられる言葉を自分なりに見付けてください。